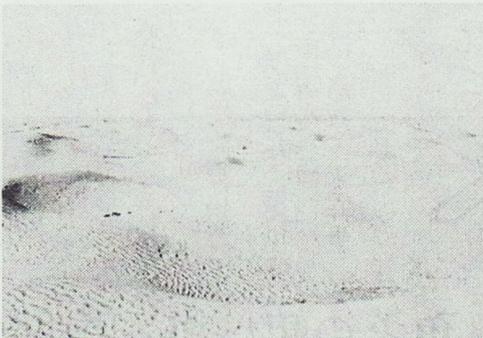


砂丘の広がるサハラ砂漠



ナツメヤシの茂るオアシス



ITP (若手研究者国際ショナル・トレーニング・プログラム) 国際的に活躍できる若手研究者を育成することを旨とし、日本学術振興会が支援する事業

昨年11月、初めてサハラ砂漠を訪れました。今まで砂漠というものを想像したとき、暑い日差しの下、かげろつの中でそびえ立つ背の高い砂丘、そんな光景をイメージしていました。確かに想像どおりの風景なのですが、そのスケールは想像をはるかに上回るものでした。砂丘の向こうも砂丘、そのまた向こうも砂丘、どこまで行っても、右を見ても左を見ても後ろを振り返っても砂丘、砂丘以外は何もない無の世界、文字

砂と暮らし  
砂に学ぶ  
ITP  
だより  
⑥

## 感動！サハラ砂漠

どおり漠然と砂漠が広がっていました。あまりに広大・巨大で圧倒的なその存在感に、ただ言葉を失うばかりでした。

右の写真はサハラ砂漠の中にあるオアシスです。サハラ砂漠を撮影した左の写真の場所から、ほんの数メートル離れていないにもかかわらず、全く異なる世界です。

この違いを生んでいるのは何か、その大きな要因は、水が有るか無いかの違いです。21世紀は水の世紀と言われる意味を感しました。

(鳥取大学大学院農学研究科学生・榎野良介)

(水曜日に掲載)